

水稻生育情報 (No.2)

令和7年7月14日
茨城県 県西農林事務所 経営・普及部門
(筑西地域農業改良普及センター)

【水稻生育状況】

7月11日現在、管内の水稻調査における「コシヒカリ」生育状況は、草丈は平年より高く、茎数は平年よりやや少なく、葉色は平年よりやや淡くなっています。幼穂長から予測した出穂日は、平年より早まっている見込みです（表1）。

表1 水稻生育調査結果（7月11日現在：コシヒカリ）

調査地点	田植日 〔月日〕	植付株数 〔株/坪〕	草丈 〔cm〕	茎数 〔本/㎡〕	葉色 〔葉色板〕〔SPAD値〕		幼穂長 〔mm〕	出穂予測日 〔月日〕
筑西市	5月7日	50	91	379	3.2	31.7	39.8	7月23日
一本松	(5月5日)	(56)	(83)	(476)	(3.7)	(33.8)	(4.6)	(7月29日)
桜川市	5月9日	52	92	415	2.9	31	40.0	7月23日
真壁町飯塚	(5月6日)	(51)	(81)	(495)	(3.5)	(32.6)	(4.2)	(7月30日)
下妻市	5月3日	46	97	545	3.6	30.5	50.8	7月23日
加養	(5月1日)	(47)	(86)	(532)	(3.8)	(33)	(34.9)	(7月24日)

※（ ）内は令和2年～令和6年の5カ年平均値

※出穂予測日の平年値は、過去5カ年出穂日の平均値。

【気象概況】

本年の5～6月の気象は、日平均気温は平年より1.6℃高く、日照時間は平年比100%となりました（図1）。一方、降水量は平年比131%（データ略）となりました。

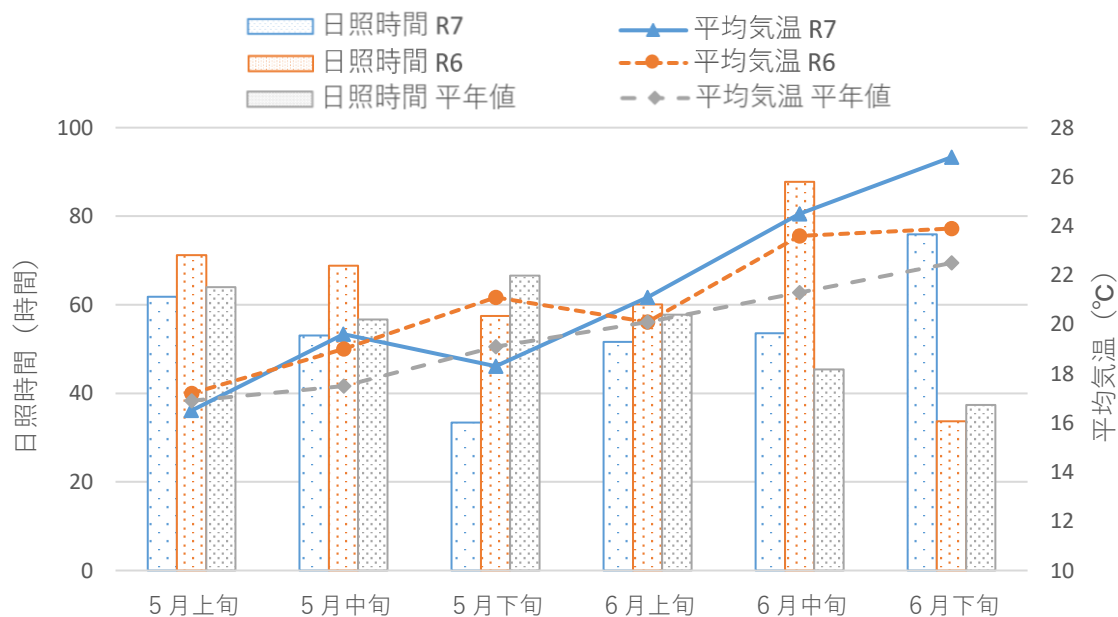


図1 5月上旬から6月下旬の旬別平均気温と日照時間（下館アメダス）

【今後の気象予報】

関東甲信地方 1 か月予報

7月12日から1か月の天候の見通し（令和7年7月10日、気象庁）

気温：高い見込み（高い確率 70%）。特に、期間の前半は気温がかなり高い状態が続く見込み

降水量：ほぼ平年並の見込み

日照時間：ほぼ平年並み見込み

週別の平均気温：7月12日～7月18日…高い見込み（高い確率 70%）

7月19日～7月25日…高い見込み（高い確率 70%）

7月26日～8月 8日…高い見込み（高い確率 60%）

【追肥診断について】

コシヒカリ（基肥・追肥体系）			
診断時期 ・ 生育指標	出穂 20 日前（幼穂長 2 ～ 6 mm） 目安：5月 1 日移植 → 7月 2 日頃 5月 10 日移植 → 7月 7 日頃 5月 20 日移植 → 7月 13 日頃		
	草丈 80 cm 未満、 SPAD 値 35 （葉色 4.0）未満	草丈 80 cm 以上、 SPAD 値 35 （葉色 4.0）未満	草丈 80 cm 以上、 SPAD 値 35 （葉色 4.0）以上
追肥時期 ・ 施用量	出穂 15 日前 （幼穂長 30 mm）に <u>1～2 kg/10 a（窒素量）</u> 「BBNK505 号」で 6.7～13.3 kg/10a（現物量） または <u>0.5～1 kg/10 a（窒素量）を</u> <u>2回</u> 施用する ① 穂肥（出穂 15 日前） ② 実肥（①の約 1 週間後） ※2回施用は、高温対策として ても有効	施用しない または 出穂 10 日前 （幼穂長 100 mm） ～出穂期頃に <u>1 kg/10 a（窒素量）</u> <u>以下</u> ※生育後半の葉色維持に 有効（高温対策として も有効だが、倒伏や玄 米タンパク質含量増加 の可能性がある）	施用しない

コシヒカリ（基肥一発肥料）

高温による白未熟粒を抑制したい場合は、出穂前の追肥を検討する

診断時期 ・ 生育指標	出穂 20 日前 SPAD 値 35（葉色 4.0）未満	SPAD 値 35 （葉色 4.0）以上
追肥時期 ・ 施用量	出穂 7～3 日前を目安に窒素量で 1 kg/10a 以下 （倒伏や玄米タンパク質含量増加の可能性あり）	施用しない

にじのきらめき（基肥・追肥体系）

追肥時期 （穂肥）	出穂 25 ～ 15 日前（幼穂長 1 ～ 30 mm） 目安：5 月 1 日移植 → 6 月 26 日～7 月 6 日頃 5 月 10 日移植 → 7 月 1 日～7 月 11 日頃 5 月 20 日移植 → 7 月 6 日～7 月 16 日頃
施用量	窒素量で 3 kg/10a ※「BBNK505 号」では 20 kg/10a（現物量）

※基肥一発肥料を使用している場合でも出穂 15 日前までの葉色が淡くなっている場合には穂肥を検討する。

【参考】幼穂の確認方法

※生育が中庸な数株の主茎または最長茎を抜き取る



表 2 幼穂長から予測した出穂期までの日数の目安（コシヒカリ）

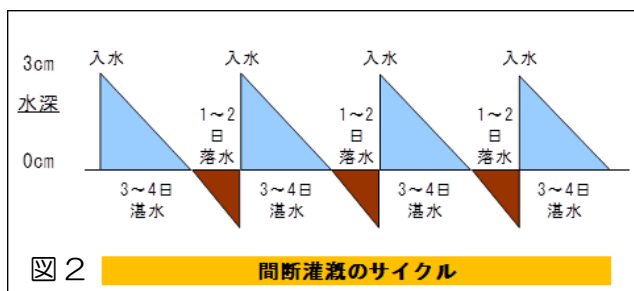
幼穂長 (mm)	確認した日から出穂期までの日数	
	平年並みの気温	平均気温 + 2℃
0.5	26～27	23～24
1	24～25	22
2	22～23	20
4	20～21	18
6	19	17
10	17～18	15～16
20	15～16	14
40	13～14	12
60	12～13	11
100	10～11	9

※「普通作栽培基準」（農業総合センター）より

※出穂期までの予測日は 7/11 ころ確認時における目安

【今後の水管理について】

- 中干しは、幼穂形成期（幼穂長 1～2 mm、出穂 25～20 日前頃）までに終了しましょう。「コシヒカリ」、「にじのきらめき」であれば、4月下旬～5月上旬に移植した圃場では6月末から、5月中旬に移植した圃場では7月5日頃から幼穂ができません。



- 中干し以降は根腐れ防止のため5日以上連続湛水は避け、入水自然落水をくりかえす間断灌漑を行きましょう（図2）。

【今後の発生に注意が必要な病害虫】

●斑点米カメムシ類

※7/10に県病害虫防除所から「注意報」が発表されています。



①耕種的防除

畦畔等のイネ科雑草は斑点米カメムシ類の生息場所となるため、出穂期の2週間前までの除草を徹底しましょう（水田内への追い込みを避けるため、出穂直前～収穫2週間前までは除草を控えましょう）。

②薬剤防除（不稔発生の予防）

出穂期～穂揃期に薬剤散布を行い、成虫密度を低下させ産卵数を減少させましょう（この時期に多数の成虫に加害されると、不稔となり、減収の原因となる）。

③薬剤防除（斑点米発生の予防）

乳熟期（出穂 10～15 日後）の幼虫の幼虫密度を低下させることで、斑点米を防ぎます。



図3 クモヘリカメムシ成虫（左上）と幼虫（右上）、イネカメムシ成虫（左下）と幼虫（右下）

（引用：県病害虫防除部、農業研究所）

※早生や晩生など、周りの水田と出穂期や熟期が異なるほ場では、被害が集中する可能性があるため、特に注意が必要です。

	7月			8月			9月
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬
イネの生育	幼穂形成期 穂ばらみ期		出穂期	乳熟期			成熟期
カメムシの生態 (成育ステージ)	イネ科雑草に生息		成虫飛来期・産卵期	ふ化期	若齢期	中齢期	老齢期 羽化
防除対策と時期	①畦畔の草刈り (成虫の飛来防止)		②薬剤防除 (不稔防止)		③薬剤防除 (斑点米抑制)		

図4 5月上旬移植の「コシヒカリ」「にじのきらめき」における斑点米カメムシ類防除の目安

●紋枯病

- ・葉鞘に、周辺が緑褐色～褐色で、内部が灰緑色～灰白色の楕円形病斑をつくります。
- ・本病にかかると下葉からしだいに枯れ上がり、茎が弱くなって倒伏しやすくなります。
- ・高温・多湿で発生が助長され、茎数が多い栽培や品種では、発生が多くなる傾向があります。発生を認めた場合には早期に防除を行いましょう。
- ・前年の被害株で発生した菌核が越冬して伝染源になるため、前年発生の多かった水田では発生が多くなる傾向があります。



図5 紋枯病の葉鞘部における病徴（左）、
本病の影響による倒伏事例（右）

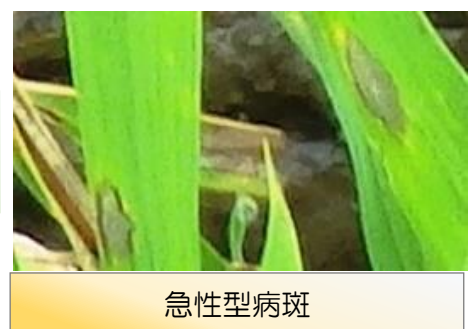
●いもち病（葉いもち、穂いもち）（常発圃場）

- ・気温 14～30℃（特に 20～25℃）で多湿条件のときに発生しやすい傾向があります。
- ・葉いもちでは、急性型病斑（右下写真）を認めた場合には早期に防除を行いましょう。その他の病斑の場合は、管内ではすぐに拡大する可能性は低いので、1週間程度後に病斑を確認してください。
- ・葉いもちが上位葉にまで伸展していると、穂いもちによる被害が多くなる傾向があります。
- ・穂いもちの防除適期は穂揃期（出穂期 3 日後）です。上位葉にまで病徴が伸展している場合には、穂ばらみ末期～穂揃期に 2 回防除が有効です。



ズリコミ症状
令和3年7月19日撮影（筑西市）

防除
しない
と？



【参考】斑点米カメムシ類、特にイネカメムシについて

※県農業研究所病虫研究室作成資料より引用

斑点米カメムシ類の加害部位

カメムシの種類	クモヘリカメムシ	イネカメムシ	アカスジカスミカメ	
				
被害粒と加害部位				
	側部	基部	頂部	頂部 (カメムシ黒点米)

イネカメムシについて

- ▶ 斑点米カメムシ類の一種
- ▶ 本種によってイネの穂が吸汁加害されると
 - ▶ 不稔（穂の発育停止）となり減収
 - ▶ 斑点米となり品質低下などの被害が生じる
- ▶ 近年、茨城県をはじめ全国的に増加傾向



成虫



幼虫



卵塊



斑点米
(基部加害)